

令和7年度 学校経営計画・分掌経営計画

(実施段階)

京都府立久御山高等学校

(別記様式)

令和7年度 府立久御山高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>本校は、久御山町内で唯一の府立高校であるという立地特性を活かし、校訓である「自学・自律・自鍛」の精神を柱に、地域・保護者に信頼され、その期待に応える教育活動を推進する。</p> <p>そのために、スポーツ総合専攻を含む普通科を設置する高校として、スポーツ活動を充実させることにより、課題発見能力と確かな学力を身に付け、仲間と共に支え合い未来を切り拓く力を備えた人材を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none">1 目標を立てて、それに向かって自ら行動する生徒を育成する。2 より良い社会の形成に主体的に関わることのできる生徒を育成する。3 基本的な生活習慣や社会人としてのマナーと教養とを身に付け、礼儀正しく、挨拶のできる生徒を育成する。4 他人の考えを柔軟に受け入れ、人権を尊重し仲間を大切にすることを生徒を育成する。	<ol style="list-style-type: none">1 社会全体がデジタル化に進んでいく中、生徒の情報リテラシーやモラルを向上させる指導が必要である。2 自転車乗車マナーの指導については法規改正も踏まえた上で、家庭・地域との連携を強化しつつ取り組む必要がある。3 探究的な学習は生徒が社会や自身のキャリアを考えるきっかけとなっている。防災教育や地域連携を通して生徒の探究的な学習態度をさらに養成していくべきである。4 部活動加入率の向上や部活動の活性化に向けて設備の充実を図るとともに、教員の負担増にならない工夫が必要である。5 コロナ禍により見直しを行った行事や学習については、引き続き不易流行の視点に立ち、その内容を吟味していく必要がある。6 家庭の協力・地域の信頼を得るために、情報提供をこまめにかつ迅速の行う必要がある。	<p>個に応じた、ワンランクアップを目指す教育活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) ICTを活用する教育活動を積極的に行い、新しい学習指導要領に基いた授業改善を推進する。(2) タブレット端末を活用することを通して、自己管理や自主学習を行う習慣をつけさせ、ワンランク上の進路目標に向けて努力させるための組織的な取組を行う。(3) 特別活動を充実させて学校の活性化を図るとともに、日々の授業に真剣に取り組ませて、部活動と学習とを両立する姿勢を培う。(4) 配慮を要する生徒へのきめ細かな教育相談・特別支援教育を推進する。(5) 自転車マナーの遵守や情報モラルを向上させ、人や社会と共生するための人間力の育成と地域社会の一員としての自覚を高める。 <p>2 保護者・地域に信頼される「開かれた学校づくり」を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) ホームページやInstagramを活用し、本校の特徴や取組が伝わる情報発信を積極的に行う。(2) 「総合的な探究の時間」やボランティア活動等を通して地域との連携を深める。(3) 小・中学校及び支援学校の様々な行事のサポートなどの連携事業を進める。(4) 家庭・PTA・地域社会・関係諸機関との適切な連携を図る。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
(1) 組織・運営	学校運営体制の強化を図る。	分掌・教科間の連携を強化し、「チーム久御山」として組織的・効率的な学校運営を行い、共通理解のもとで重点目標の達成に努める。	B	B	<p>○学校全体の課題について教育検討会議を行い、課題解決に向けて教職員で対策を検討、実施してきたが、依然として取り組むべき課題は残っている。</p> <p>○日々の業務においては、各分掌と連絡調整を行い進めているが、主体的・積極的に参画するところまではいかなかった。</p>
	学校評価等の充実に努める。	新入生アンケート、学校評価アンケート等を適宜実施し、経年比較することで本校の教育的課題を明確化する。	B	B	
	学校活性化に努める。	教育検討会議において学校における様々な教育的課題を検討し、課題解決に必要な対策を企画する。	B	B	
	主体的・積極的な事務の企画、立案等を推進する。	「府立学校の事務等に関する規程」を理解し、主体的・積極的に学校運営に係る事務の企画、立案及び連絡調整を行う。	C	C	
(2) 教育課程の編成と実施	教育課程の実施	I C T活用による「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善を推進しつつ、観点別評価を適切に取り入れながら教育課程を実施していく。各教科における教材研究についても積極的に促していく。	B	B	<p>○「主体的・対話的で深い学び」やI C Tを活用した授業の研究について、各教科で研究や実践を進めている様子がみられた。</p> <p>○総合的な探究の時間については昨年度の取組を踏まえた上で実践を進めることができた。内容を精査し、より充実した活動となるよう検討していく。</p>
	総合的な探究の時間の実施	総探の実施内容について、昨年度の実践における成果や課題を踏まえて、地域探究をテーマに学年部・各教科と連携して立案・実践するとともに、本校の3年間の探究活動を見通した指導計画の作成を進める。	C	C	
(3) 学習指導	学力の向上と教科の指導力の向上を目指す。	生徒に必要な資質を向上させることを目的とした「主体的・対話的で深い学び」やI C Tを活用した授業の研究や実践を行う。 観点別評価について、その評価方法の趣旨に則して、さらに良い評価となるよう議論を継続していく。	B	B	<p>○成績処理や欠席過多生徒の連絡システムにおいて安定した運用ができたことにより、生徒への必要な支援・指導につなげることができた。</p> <p>○成績不振科目を抱える生徒に対して、教科担当と学年部が連携し、適切な支援につなげることができた。</p> <p>○学生ボランティアを活用し、個別支援を実施することができた。</p>
	<学籍管理> 成績処理の安定化と成績不振生徒への適切な対応	校務システムの特徴を活かし正確な成績処理が行われるよう働きかけるとともに、教員間の連携を密にし、早期に成績不振生徒の把握・サポートに努めて不適応となることを防ぐ。	B	B	
	配慮を要する生徒への特別支援教育を推進する。	様々な観点から配慮を必要とする生徒を把握し、個別指導等とおして早い段階から自立に向けた支援ができる体制作りを努める。	B	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
(4) 特別活動	学校の特色として部活動・同好会活動の活性化を図る。	生徒の健全育成の為、適切な部活動運営に努めるとともに、部活動指導員等を活用し、より一層充実した活動の保証と競技力の向上を図る。	B	B	○部活動加入率は68.1%であり、昨年度と比べ増加した。加入率のさらなる増加に向け、魅力ある部活動を展開していきたい。 ○入部している生徒は熱心に活動し、全国大会や国民スポーツ大会出場など、優秀な成績を収めている部活動もある。 ○生徒会本部が、積極的に地域や大学などとの交流事業参加したことで、地域とのつながりに大きく貢献してくれた。
		部・同好会への加入率の向上（75%）を目指すとともに、部活動をより活性化させ、部活の数を増やす等、内容の充実を図る。	C		
	生徒会を中心とする自主活動の活性化を図る。	学校行事において、生徒会本部役員を中心に、生徒の主体的な運営を目指して指導を行う。	B	B	
		文化祭等各種行事や生徒会・委員会活動を活用し、生徒の自主活動の段階的成長を図る。 ボランティア活動や地域との交流等への積極的な参加を促し、「共助」の精神を養う。	A		
(5) 生徒指導	自ら律する力をつけた生徒を育成する。	校訓である「自学・自律・自鍛・共助」の精神について、教育活動を通して実践する能力と態度を養成する。	B	B	○特別指導件数は昨年度と同様であった。今年度は郊外での問題行動に加え、SNS使用に係る指導事象が発生した。また、特別指導には至らなかったが、器物破損などの軽微な事象は依然として多い傾向にある。指導方法や指導体制について今後も検討を続け、モラルやマナーなど社会通念上の常識を身に付けさせる教育の徹底が必要であると痛感している。 ○登下校での交通ルール、マナーに関しては、以前苦情はあるものの、例年に比べ改善しているとの声を地域からいただくことも多かった。今後も、講演会の実施や日々の指導において、より一層安全な登下校を目指していきたい。 ○いじめアンケートの実施、いじめ対策会議の開催を通じて、いじめの早期発見、早期対応に努めるとともに、教員間の情報共有を密におこなった。
		あらゆる教育活動を活用して「自ら律する力」の育成を図る。特にホームルーム活動・委員会活動・部活動において、重点的に指導する。	B		
	問題行動を起こさせない生徒指導を行うように努める。	警察との連携を深め、交通安全指導や交通安全講演会の実施等、指導内容を充実させる。特に自転車の交通ルールやマナーの向上を図る。	A	B	
		挨拶や言葉遣いなどの日常的なマナー指導を通じて、規範遵守の意識を向上させる。	B		
		登校時の指導やホームルームでの指導、啓発文等を活用し、問題行動防止の啓発に努めるとともに、問題行動への早期対応・指導を行う。 講演会や全校集会（学年集会）を有効に活用し、生徒の規範意識の向上を図る。	B		
	防犯体制・防犯教育の充実を図る。	緊急時の対応体制の確立、日常の校門指導（遅刻等）、貴重品管理の徹底（盗難防止）等の指導体制を継続し実行する。	B	B	
防犯教育の一環として、SNS等を介したサイバー犯罪と違法薬物に関することを中心的に取り上げ、安全確保の意識と緊急時の適切な行動の実践力を養成する。		B			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
(6) 進路指導	生徒1人1人の進路意識を高めるとともに、全校生徒の希望進路実現を目指す。	3年生全員の希望進路を実現するために、進路指導に必要な情報を第3学年部と共有し、担任が生徒1人1人に必要な支援を行うことができる体制を整える。	C	B	<p>○進路実現に向けて第3学年部との情報共有に努め、就職希望者については民間、公務員それぞれの希望に応じたきめ細かい指導をおこない内定率100%を達成した。</p> <p>○1、2年生に対する進路HRを学期に1回のペースで設定することができた。生徒の満足度も高く生徒のニーズに適した内容を設定することができた。</p> <p>○学年部との分掌間の連携について進めてきたが不十分な点もあった。また、教職員研修会の参加率も低く、学校全体で進路指導をおこなう体制を構築していかなければならない。</p> <p>○進学講習は、平日講習、夏期講習、冬期講習を実施した。生徒、教員ともにより高い意識で取り組む環境づくりに努める。</p>
		外部人材等も有効に活用しながら就職内定後のサポートも含めた就職セミナーを年間10回以上開催し、就職希望生徒の業種ミスマッチや早期離職を未然に防ぐ就職指導を行う。	A		
		生徒の視野を広げ、多くの選択肢から自己の希望進路を明確に設定することができるように、効果的な平日講習、夏期講習、冬期講習の実施に加え、外部人材等も有効に活用しながら、1年生、2年生に対して年間複数回の進路HRを設定する。	A		
	全教職員が進路指導に関する正しい知識を持ち、積極的に進路指導にかかわる体制を整える。	外部人材等を有効に活用しながら教職員研修会等を実施し、最新の入試動向や入試形態の変更点について学校全体で共有する機会を設ける。	A	B	
	模試日程を早期に示すことにより、全教職員で負担を分担しながら週休日に実施する模試を円滑に運営することができる体制を整える。	B			
(7) 人権教育	人権教育の推進を図る。	日常生活の中で、他人に配慮する姿勢を身につけさせ、「暴力・いじめ」を絶対に許さない気運を醸成する。また、生徒の様子等を観察し、「暴力・いじめ」につながる行為の未然防止に努める。	B	B	<p>○いじめにつながる重大事案なかったが、個人間の小さなトラブルは多々見られた。他者を思いやり、受け入れる心の育成に向けた研修や指導を継続する。</p> <p>○生徒に関する情報交換を学年部や他分掌と積極的におこない、希望する生徒や保護者を中心にSCへつなげることができた。</p> <p>○学校生活に課題がある生徒について、SCやSSWと連携し、専門的な立場からアドバイスをいただき、学年と直接相談できる機会を作ることができた。</p>
		各分掌・教科と連携し、豊かな教養の涵養や、道徳規範や生活規律の遵守を徹底することをあらゆる機会をとおして指導し、人権意識を高める。	B		
	<特別支援教育及び適応指導>合理的配慮が必要な生徒への教育的支援を図る。	各分掌との連携を密にし、特別支援教育及び教育相談活動を充実させるとともにスクールカウンセラーの効果的な活用を図る。	A	A	
		学校生活に課題のある生徒の状況を把握し、教務部と連携し学習支援体制の充実を図る。また、必要に応じてスクールソーシャルワーカーの援助も受け、児童相談所等の外部機関との連携を密にする。	A		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
(8) 図書館指導	図書館の資料や設備等を充実させ、読書の推進を図る。	各種の情報や要望に基づき、長期的視野に立って図書館資料を充実させることにより読書の推進を図り、貸出冊数や授業で図書館を利用する機会の増加につなげる。	B	A	A	○図書館については、図書の計画的な整備を進めるとともに新たなブックリストを作成した。また、図書館内のイベントを企画し、生徒が図書に親しむ機会を広げることができた。
		時宜にかなった特設コーナーの設置や読書イベントの企画、運営を行い、図書館に足を運ぶ生徒数の増加につなげる。	A			
(9) 健康・安全	健康・衛生管理の徹底を図る。	学校保健計画に基づき、適切な健康診断、健康調査、事後指導、健康相談を実施する。	B	B	B	○学校医からの助言と指導を受け、健康診断員おける健康管理について、計画通り実施できた。 ○薬物乱用防止のための講演を1学期に実施し、生活環境が変化した1年生に対して早い段階で啓蒙を図ることができた。 ○保健だよりを発行し、健康管理の大切さを生徒に伝えた。 ○清掃活動は概ね取り組んでいたが、ゴミの分別には課題がみられた。引き続き、校内外の環境整備・美化意識の向上につなげたい。
		学校安全計画に基づき、学校環境の整備、衛生・安全面に関する定期点検を行い、改善に努める。	B			
	健康安全教育の充実、推進を図る。	薬物乱用防止教育、救急法講座等の健康教育を推進する。	A			
		自身で健康管理をすることで自律した生活を送ることの大切さを理解できるような取り組みをする。	A			
	<学習環境・美化活動> 環境保護・美化活動の推進により学習環境の充実を図る。	ゴミの分別を徹底させる。また、ゴミ総量の減少にも努める。	B	B		
生徒の清掃活動を充実させるため、美化意識を向上させる取り組みを促す。						
(10) 研究・研修	研究・研修に努め、教育職の専門性を高める。	「京都府教員等の資質の向上に関する指標」に基づき、教職員の資質能力の向上に努める。	B	B	B	○研修については、教職員の参加意欲が高まるよう、啓発を促進する必要がある。 ○服務規律の確保については啓発できている。
	服務規律の確保に努める。	服務規律を確保するため、あらゆる機会を通じて啓発する。	B	B		
(11) 安全管理・環境整備	施設設備の安全管理の徹底に努める。	安心安全な学校を維持するため、施設・設備の定期的な点検を実施し、不良箇所等の早期発見・早期対策に努めるとともに、予防保全を行い、老朽化している施設・設備の計画的な改修を行う。	B	B	B	○学校施設の老朽化所や不良個所について可能な限り早急に改修するとともに、自習室に自学自習用の机を導入したり、空調機の新設工事を実施したりするなど、生徒が快適に学校生活を送り、学習に集中できる環境づくりを進めた。 ○部活動の活性化に向けた取組については、十分にできなかったため、今後の課題とする。
	設備、備品等の改善整備に努める。	部活動の活性化や生徒一人一人が自学自習に取り組みやすい教育環境の整備に向けて、物品及び施設設備の充実化に努める。	B	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
(12)情報・文書管理	校内のネットワークを適切に管理、運営し、ICT教材を用いた教育活動の推進を図る。	校内のネットワークやファイルサーバーの管理、運営を適切に行う。	B	B	B	○タブレット端末の不具合や修理故障についてスムーズに対応することができた。 ○校内サーバーを整理整頓し、適切な運用につなげた。
		教務部、事務部と連携しながら、タブレット端末本体や配信アプリの管理を適切に行うとともに、タブレット端末の利用促進を図る。	B			
(13)開かれた学校づくり	広報活動（情報発信）を積極的に行う。	ホームページやインスタグラムを活用し、生徒の活発な様子が伝わる情報発信を積極的に行う。	B	B	B	○ホームページやインスタグラム、デジタルサイネージの活用が充実してできた。一方で、学校案内の中学生向け配布数を削減した点については、次年度以降の検討課題である。 ○学校説明会においては、リモート実施を取り入れるとともに、PRスタッフとして生徒を活用するなどの工夫をおこない、参加者に本校の特色を伝えることができた。 ○伝統文化事業については、教科担当者の負担が過度とならないよう実施方法を見直した。また、華道体験を実施するなど、内容の充実を図ることができた。
		生徒の活発な様子が伝わるような学校紹介に係る広報資料の作成、配布を行うとともに、特に山城教育局管内の公立中学校との連携を密にし、積極的な広報活動を行う。	C			
		学校説明会、部活動体験会等については、生徒指導部や関係部活動等と連携しながら、生徒主体で、生徒の活発な様子をPRすることができる説明会となるよう、運営を工夫する。	A			
	特色ある教育を推進する。	関係教科と連携を密にし、主権者教育、伝統文化事業などの各種事業を適切に行い、教育活動の充実につなげる。	B	B		
	<保幼小中支高連携> 保幼小中支高における連携事業を推進する。	小・中学校及び支援学校の様々な行事のサポートなど連携事業を進める。特に久御山地域の教育施設については、特色化事業の観点からもさらに連携を深める。	B	B		
(14)家庭・地域との連携	保護者との連携を図る。	生徒の健全育成のために、家庭・PTA・地域社会・関係諸機関との適切な連携を図る。	B	A	A	○PTA活動は、今年度より学級委員を廃止し、PTA総会を原則書面で実施することにより教員、保護者双方の負担軽減を図った。また、学校行事では運営ボランティアを募り運営をおこなった。
	PTA活動を適切に援助する。	PTAを取り巻く時代の変化に配慮した上で、保護者等がPTA活動に積極的に参加しやすいような取組となるように、副校長と連携しながらPTA活動の連絡・調整・案内等を適切に行う。	A			

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会全体がデジタル化に進んでいく中、生徒の情報リテラシーやモラルを向上させる指導がますます求められる。 ・規範意識の向上については、地域や家庭との連携が不可欠である。「地域に根差した学校」を目指し、幼・小・中・高の連携はのみならず、久御山町や地元企業との連携も深め、地域全体で生徒を育てていく環境づくりを進めていただきたい。 ・防災や久御山町を対象とした対話的・体験的学習を通して、生徒の探究的な学習態度を養うとともに、生徒が主体的に学習に取り組み、社会で活躍できる人材育成に取り組んでいただきたい。 ・目標設定に当たっては、評価しやすいようになるべく数値化することが望ましい。また、生徒や保護者から出た意見を受け止め、改善に取り組むとともに、次年度へ同じ課題を残すことがないようにしていただきたい。 ・部活動や生徒会活動は、学校生活の中で大きなウェイトを占めており、学校の活性化につながる大きな要素となっている。教員の負担増にならないようにしつつ、生徒にとって満足度の高い活動となるよう、さらなる工夫が求められる。
----------------------------------	---

<p>次年度に向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の交通安全を含め、社会におけるモラルやマナーについて、生徒が主体的に学ぶ機会を作るとともに、日々の指導において、ルールや規則を守ることの意義等について粘り強く指導をおこない、生徒の規範意識の向上を図る。 ・情報リテラシーや情報モラルについて学ぶ機会を設定し、インターネットやSNSの正しい使い方について理解を深め、トラブルの加害者にも被害者にもならない態度を育てる。 ・総合的な探究の時間の充実や生徒会活動、部活動の活性化を通じて、地域とのつながりを深め、連携を一層強化していく。 ・生徒の学校生活や学習状況などについて、保護者等へ積極的に情報発信を行い、学校での様子について知ってもらう機会を増やす。 ・中学生や地域住民等に対し、久御山高校の様々な活動についてホームページやSNS等を利用して積極的に発信し、学校の魅力を伝えていく。
---------------------------	--